

四明会たより

京都大学農学部四明會 2021年8月発行

ごあいさつ

四明會会長 澤山 茂樹
(農学研究科長・農学部長)

会員各位には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は本会の活動にご支援・ご協力を賜りまして、誠に有り難うございます。四明會は令和3年度、学部310名、大学院修士課程318名、博士課程69名の新会員を迎え、会員数は25,756名となりました。

昨年度、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、観桜会、観月会、ソフトボール大会、農学部卒業50周年記念同期生会、新年会、在学生の就職活動支援のセミナー・懇談会は中止または延期とさせていただきます。会員交流の機会を十分に提供できなかったことは、斬鬼の念に堪えません。今年度も観桜会は中止とさせていただきますが、新入学生保護者懇談会は、ホームページからビデオを閲覧できるオンデマンド形式で行いました。6月に入って、ワクチン接種がかなり加速してきましたので、四明會の会員交流事業が再開できる日が、徐々に近づいてきているのではないかと感じております。

ここで、今年度早々の会員の栄誉をご紹介します。令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、地域環境科学専攻の近藤 直教授が、シブヤ精機株式会社所属の4名様と共同で科学技術賞（開発部門、スマート農業を先導する選果ロボットとセンシング技術の開発）を受賞されました。衷心よりお祝い申し上げます。

今年は新型コロナウイルス感染症への対策を十分に進め、卒業式・修了式・入学式を、新2回生を含め執り行うことができました。講義についても感染対策を十分に取しながら、4月から対面授業を中心に実施していましたが、京都府に緊急事態宣言が発令されたことから、4月下旬から6月の実験・実習・演習以外は、原則 Zoom を用いたオンライン授業が行われています。本学の活動制限のガイドラインにおける対応レベルが可能となった段階で、講義を含めて対面を中心とした授業へ復帰させたいと考えております。

さて、当学部は1923（大正12）年に設立され、2023（令和5）年に創立100周年を迎えます。そこで、「農学部100周年記念事業基金」を設立し、さまざまな事業の実施を計画しています。これらの事業は、農学部の卒業生や縁の深い方々とともに100年の歴史と今後の展望について語り合う機会とするとともに、日本の農学の将来を担う若手研究者たちの国際的飛躍の契機とすることを狙いとしています。こうした事業の実施に加え、本基金は持続

的未來の鍵となる農学の発展を担い、環境や食料問題に取り組む研究者を育成するために役立てられるほか、農学部における教育と研究環境等の整備にも活用する予定です。次世代の学生・若手研究者たちが、人類の持続的未來の鍵を握る農学の発展をリードする研究者として、あるいは、環境と食料供給の持続性に農学の専門的知識をもって取り組む職業人として活躍できるよう支援してまいります。なお、具体的な基金の使途は下表のように計画されております。

項 目	内 容
農学部百年史編纂	百年史の編纂にあたっての取材・制作費
百周年記念事業の実施	記念事業にかかる必要経費
国際研究集会の支援	大学院生・若手研究者を対象とした国際研究集会の開催
教育・研究設備等の充実	農学部・農学研究科における教育・研究設備等の整備
若手研究者の支援	若手研究者の海外派遣費用等の研究経費

一方、農学研究科独自の若手研究者育成に関わる対応策として、平成30年度から農学部教育研究基金を主要な財源に充て、35歳以下の若手特定教員4名の採用を継続しています。さらに、農学部教育研究基金は、男女共同参画社会実現を目的に、教員が出産・育児に携わる期間、教育・研究活動に支障をきたすことなく双方を両立させる職場環境の支援制度にも活用されております。

農学部教育研究基金につきましては、名誉教授の先生方を始め、多くの会員からご寄付を頂戴しておりますことに篤く御礼申し上げます。お願いばかりで誠に恐れ入りますが、農学部100周年記念事業基金につきましても、今後のご支援を宜しくお願い申し上げます。



名簿第63号の発行について

四明會名簿は隔年発行となっており、通常であれば昨年が発行年に当たっていましたが、コロナウイルスの関係による業績不良の企業も多く、広告掲載に応じていただける企業は前回の半分に届くかどうかという見込みから、発行を延期しました。今年になっても相変わらずの状況ですが、名簿第63号の発行に踏み切ることになりました。

購入ご希望の方は同封の払込通知票（赤色のもの）で代金3,000円を郵便局から振り込みくださるようお願いいたします。

なお、発送は12月の予定です。

同窓会たより

◎農学科(KND)

KNDならびにゆりの木会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度のゆりの木会は新型コロナウイルス感染拡大の情勢を鑑み、誠に残念ながら木津農場での田植え会を中止させて頂き、恒例の新入生歓迎会についてはオンラインでの開催となりました。

昨年の四明会たよりでのご報告以来、複数の人事異動がありました。2021年3月には雑草学分野の富永達教授と品質評価学分野の松村康生教授が定年退職されました。また同じく3月には品質評価学分野の石井統也特定助教が任期満了となり、植物生産管理学分野の間合絵里特定助教が東京農業大学へ転出されました。一方、2020年8月には植物生産管理学分野に山崎彬助教が、2021年4月には雑草学分野に黒川俊二教授、品質評価学分野に及川彰教授、作物学分野にLin Taiyu特定助教が、果樹園芸学分野に大野健太郎特定助教がそれぞれ着任されました。

末筆ながら、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(大野 翔)

◎林学科(クローネ会)

クローネ会の皆様におかれましてはコロナ禍においてもご健勝のことと存じます。

今年は例年になく梅雨の始まりがはやく、樹木実習も雨の中で、コロナ感染に注意をしながら実施いたしました。夏恒例の芦生実習も3班にわかれて、人数を制限して実施される予定です。

芦生演習林の設置から100周年を迎えました。2021年3月には「研究林100周年記念式典・講演会」がオンラインで開催され、旧農学部附属演習林の関係者や林学科の卒業生、自治体の関係者、研究林・試験地の教職員など約300名の方のご参加がありました。講演会では、「芦生研究林の100年の歩みと新たな30年：様々な生き物が棲む森へ、多様な人がともに学ぶ場へ」と題し、渡辺弘之京都大学名誉教授(元芦生演習林長)、芝正巳琉球大学名誉教授(元芦生研究林長)や現役教員らによる講演がありました。

旧林学科の教員の異動につきまして、年度末に森林情報学分野の吉岡崇仁教授と寄元道徳助教が定年退職され、新年度から館野先生が教授に昇任されました。

末筆ながら、皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(内藤大輔)

◎農芸化学科・応用生命科学科(専攻)(六成会)

六成会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本会は旧農林化学科の流れをくむ同窓会で、現在では農学部応用生命科学科(農学研究科応用生命科学専攻)の11研究室(細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御科学、応用構造生物学)と生命科学研究科の2研究室(分子細胞育種学、植物分子生物学)、応用生命科学専攻協力講座の7研究室(分子生体触媒化学、分子微生物科学、森林圏遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換化学、農学研究科寄付講座「産業微生物学」、学際融合教育研究センター「生理科学研究ユニット」)で構成されています。

令和3年度は、学部1回生49名、修士1回生59名(留学生4名)、博士1回生17名(留学生5名)を新たに迎えました。また、この1年間に多くの教員の異動がありました。令和3年3月末に、生体高分子化学分野の植田充美教授、生物調節化学分野の中川好秋准教授が退職されました。植田先生は引き続き京都大学産官学連携本部特任教授としてご活躍されています。中川先生は引き続き生物調節化学分野で研究員として活躍されています。また、植物分子生物学分野(遺伝子特性学)の西浜竜一准教授は東京理科大学に教授として転任されました。一方、令和2年11月に、細胞生化学分野に木村泰久准教授、化学生態学分野に小野肇准教授が昇任されました。さらに、令和

3年1月に制御発酵学分野へ白石晃将助教、同年2月に生体機能化学分野へ宋和慶盛助教が着任されました。令和3年4月には、植物栄養学分野に伊福健太郎教授が着任されました(分子細胞育種学研究室の准教授より昇任)。令和3年度もコロナウイルス対応の影響が大きく、当初は対面式でしたが、4月半ば以降は基本的には講義はオンライン形式となりました。学生実験や実習は対面式で行っていますが、密にならないように工夫しながら進めています。研究活動も制限を受けてはいますが、活発に行うよう努力していますので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

六成会の恒例行事である予餞会はオンライン開催となり、令和3年3月22日(月)に行われました。オンラインに関わらず、大盛況で大幅に予定をオーバーする有意義な会となりました。ソフトボール大会もコロナウイルスの影響で中止となり、寂しい1年でありました。令和3年も春季はソフトボール大会の開催はできそうにありません。緊急事態宣言が解除されるまでは制限が強く、対面式の活動は困難な状況です。六成会のもう一つの恒例行事である新入生歓迎会は、例年であれば入学式当日のガイダンス終了後に開催されておりましたが、今年もコロナウイルスの影響で対面式では開催できませんでした。そのため、新入生にオンライン会議の利用の仕方に習熟してもらい、4月16日(金)にオンラインで新入生歓迎会を開催いたしました。

六成会の動向や活動の様子はホームページ(<http://www.rikuseikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>)で紹介していますので、是非ご覧いただきたいと思います。今後とも六成会へのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。最後になりますが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念しております。

(白井 理)

◎農林生物学科(南窓会)

南窓会の皆様におかれましては、お元気で過ごしの事と存じます。新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方には、心よりお悔み申し上げます。また罹患された方には、早期の快復を祈念申し上げます。

旧農林生物学科に関わる研究室の今年度の人事異動をご報告申し上げます。本年3月31日で、植物遺伝学分野准教授宮下直彦先生がご退官されました。分子集団遺伝学の分野で多くの国際的な研究業績をあげられ、後進の指導にご尽力くださいました。長年の研究教育へのご貢献に感謝申し上げます。また、本年4月1日付けで、植物遺伝学分野教授に吉田健太郎先生(前神戸大学農学部)、植物病理学分野准教授に峯彰先生(前立命館大学生命科学部)、昆虫生態学分野助教に高田守先生(前京都大学博士研究員)、栽培植物起原学分野助教に堺俊之先生(前英国 The Sainsbury Laboratory 研究生)が着任されました。新進気鋭の先生方により研究教育が一層活性化されることが期待されます。

卒業生・修了生の学位取得者を紹介いたします。高橋数冴氏(植物遺伝学分野)、吉岡資洋氏(植物遺伝学分野)、LEE Chih Chi氏(昆虫生態学分野)、源麗楓氏(生態情報開発学分野)が昨年度中に博士号を取得されました。

残念なお知らせもごさいます。2020年10月3日に、1967年から1991年まで応用植物学研究室教授でいらっしゃった瀧本敦先生がご逝去されました。さまざまな分野の研究を補助され、花成ホルモンの研究で大きな功績を残されました。ご冥福をお祈りいたします。

旧農林生物学科の研究室が所属する資源生物科学科では、本年度よりコース制度が始まりました。今年度入学生の3回生進学時に、植物生産科学コース、応用動物科学コース、海洋生物科学コース、生物先端科学コースの4コースへの分属が課される予定です。

旧農林生物学科は、生物先端科学コースに対応し、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学の8分野定員25名のコースとなる予定です。生物先端科学コースは、農学部にあって世界トップクラスの生物学基礎研究を目指す研究者を育成することを目標に、旧農林生物学科の自由闊達な伝統を生かし、手厚い教育と

高度な研究体制の確立を目指します。南窓会の皆様には、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

(寺内良平)

◎地域環境工学科(洛水会)(旧農業工学科、旧農林工学科)

洛水会会員の皆様には益々清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

本年5月22日に開催された今年度の洛水会総会は、昨年度と同様にオンライン開催となりました。また、昨年度は実施できなかった講演会を総会の前にオンラインで実施し、講演会ならびに総会の参加者は近年では最多となる57名となりました。この総会において会長を拝命した農業システム工学分野の中嶋です。来年3月末での定年後の5月の次年度総会まで会長を務めさせていただく形になります。何かと至らぬ点やご迷惑をおかけすることがあるかも知れませんが、よろしくお願い申し上げます。

はじめに、昨年の総会以後の教員の異動を報告させていただきます。農学研究科長・農学部長を務められていた施設機能工学分野の村上章教授は、昨年9月末日で退職され、同年10月1日付で京都大学理事・副学長に就任されるとともに、洛水会名誉会員となりました。大学運営という立場でありこれまで以上にご多忙とは拝察いたしますが、今後益々のご活躍を祈念する次第です。また、昨年3月に急逝された農業システム工学分野の清水教授の後任として昨年8月1日付で中嶋が准教授より昇任しています。

また、慶事について、昨春秋に名誉会員の高橋強先生、正会員の伊丹光則様(S48年卒)、茨木教晶様(S46年卒)がそれぞれ叙勲の栄に浴されました。ここに謹んでお喜び申し上げます。

昨年から続いている新型コロナ情勢ですが、当会の年間行事へも影響があり、昨春秋に予定していたスポーツ大会と学生交歓会、本年3月の学位授与式後の卒業生祝賀会は中止、4月の新入生歓迎会は内容縮小となってしまいました。また、四明会名簿発行年は洛水会名簿を発行せずに会報冊子を発行していたのですが、昨年発行予定だった四明会名簿が発行延期で今年度発行されることになり、今年度の洛水会名簿発行と重複する形になってしまいました。今期において、重複発行の解消策を検討する予定です。

最後になりましたが、近くにお越しの際は、農学部旧農農工学科関係分野の方にもお立ち寄りいただければ幸いです。

(中嶋 洋)

◎農林経済学科(洛友会)

洛友会会員の皆様におかれましては、益々清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

最初に、長きにわたり洛友会事務局を担って下さった澤田 敏氏が令和3年3月末をもってご退職されましたこと、ご報告させていただきます。これまでのご厚情にこの場をお借りして御礼申し上げます。後任として栗山 敦氏に事務局をお願いすることになりました。

食料・環境経済学科の近況について

本学科・専攻における昨年度からの人事異動をご紹介します。農学原論分野の大石和男助教が令和2年8月31日付で退職され、文化庁に転出されました。一方、令和3年4月1日付で2名の教員が赴任しました。経営情報会計学分野の松下秀介教授と農学原論分野の坂梨健太准教授です。松下教授は筑波大学から、坂梨准教授は龍谷大学からの転入となります。教職員に関する人事異動は以上です。

現在、学科・専攻には特定講師も含め18名の教員が在籍しています。修士課程には48名の学生が、博士課程には28名の学生が在籍しており、いずれも定員充足率は100%を超えています。大学院では留学生が全体の4割弱を占めています。また、本年度の学部新入生は34名でしたが、女子学生の割合が過半となっております。本学科が1924年に農林経済学科として設置されて以来、はじめてのことではないでしょうか。ちなみに、2020年度における京都大学の女性教員比率は12.7%ですが、これは国立7大学のなかで、もっとも低い数字です。このような状況を打開するため、京都大学ではジェンダー平等の促進策として、女性研究者の育成・獲得を検討しています。

末筆ながら、会員の皆様の方へのご健勝とご活躍を心よりお祈り

申し上げます。

(専攻長:伊藤順一)

洛友会の活動について

昨秋は新型コロナ禍のため、総会や記念講演は残念ながら中止となりました。また、令和3年新春号として「洛友会だより(第6号)」を発行しました。この号には、私たちの偉大な先輩であり中華民国(台湾)の総統も務められた李登輝氏が令和2年7月30日に逝去されたことを悼む特集記事が掲載され、大きな反響がありました。

新たな取り組みとして、今年度より会員諸氏に洛友会活動をもっと知っていただくため、独自のWebサイト(ホームページ)を開設します(<http://rakuyu.kyoto-univ.jp/>)。洛友会および専攻・学科の情報発信に努めてまいります。併せて、会費納入の利便性をより高めるために、会費納入のオンライン決済ページも開設いたしました(<http://rakuyukai.stores.jp/>)。このオンライン決済ページでは、スマートフォンやPCから気軽に納入していただくことができるようになります。初めてのサービスでクレジットカード決済を不安に感じられることもあろうかと存じますので、Amazon Payによる支払い方法をご用意します。普段の買い物などでご利用されているAmazonの支払い方法を通じて洛友会の会費を納入していただけます。当然に、昨年まで利用しておりました、納付書によるお支払いも継続しますので、より利用しやすい納付チャンネルをお選び下さればと思います。



洛友会 独自Webサイト(ホームページ)



オンライン会費納入ページ

(鏡島正信)

◎水産学科(緑洋会)

緑洋会の皆様におかれましては、ますます清祥のこととお慶び申し上げます。

令和2年度応用生物科学専攻の海洋系(旧水産学科)における教員の異動についてご報告申し上げます。海洋生物機能学分野の准教授に、木下政人先生が昇任されました。また、令和2年10月1日付で、海洋生物生産利用学分野に毛利晋輔特定助教が着任されました。

コロナ禍での活動制限の中、オンラインの活用など試行錯誤しながら、教育研究活動を進めてきました。そのなかで、資源生物科学科海洋グループの課題研究発表会(ポスター発表)と応用生物科学専攻海洋系の修士論文発表会(口頭発表)はどちらもオンライン開催となりました。例年、緑洋会主催で開催しておりました発表後の学生、教職員の懇親会は、残念ながら中止とせざるを得ませんでした。心配な状況が長引いていますが、ワクチン接種などによって、一刻も早くこれまで通りに落ち着くことを願ってやみません。

末尾になりましたが、緑洋会会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(菅原達也)

◎林産工学科(ユナリグナ)

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度夏以降の旧林産工学科関係の人事ですが、教員の定年退職や異動はなく、引き続き研究・教育に当たっております。昨年来続く新型コロナウイルス感染症の影響による三度の緊急事態宣言を受け、昨年度はほぼ全ての授業がオンラインとなりましたが、実験・実習については十分な感染防止対策を施し、何とか対面で実施することができました。この原稿を執筆しているのは、ちょうど三度目の緊急事態宣言が解除され、対面授業が再開する時ですが、大学でのワクチン接種も開始されるとのことで、このままコロナ禍が収束へ向かえばと祈るばかりです。

さて、同窓会活動に関しましては、学科再編などの影響をうけ、

「ユナリグナだより」の発行も止まった状態で、「ユナリグナ」としての活動は停滞気味ですが、一方で、「東京ユナリグナ」、「関西ユナリグナ」がそれぞれ2年に1度交互に開催されることとなり、同窓生の交流の場が定着してきました。本来であれば昨年11月21日に「関西ユナリグナ総会」が開催される予定でしたが、こちらも新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

また、私自身が管理者となっております「ユナリグナ」のホームページ(URL: <http://h3news1.kais.kyoto-u.ac.jp/users/yanase/HP/index.html>)につきましても、「東京ユナリグナ」と「関西ユナリグナ」の開催情報などをできる限り更新していきたいと考えておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員および会友の皆様からの一層のご支援とご協力をお願いしますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(築瀬佳之)

◎食品工学科・食品生物科学科(専攻)(中陽会)

中陽会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年は3月24日に学部卒業生・専攻修士生の歓送会が楽友会館において予定されておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催を自粛いたしました。歓送会は実施できませんでしたが、例年と同様に食品生物科学科4回生30名、食品生物科学専攻修士課程32名が新たに巣立っていきました。また、4月7日に同じく楽友会館において予定されておりました中陽会総会および新入生歓迎会につきましても、同日、飲食を伴わない対面形式にて農学部総合館W522教室において開催いたしました。新たに食品生物科学科1回生34名、食品生物科学専攻修士課程32名、同博士後期課程2名を迎えることができました。中陽会総会および新入生歓迎会は盛会で、学生と教職員の親睦を深める大変良い機会となりました。特に、若い感性と活力をもつ新しい会員が加わることは、中陽会の伝統をさらに発展させる上で、大きな喜びであります。なお、昨年10月には修士課程に1名、博士後期課程に1名が編入学しております。

教職員の異動もこの一年間で複数ございました。令和3年3月31日付で食品生理機能学分野教授・井上和生先生の食品分子機能学分野兼任が終了となりました。令和3年4月1日付で食品分子機能学分野准教授・後藤剛先生、同分野助教・高橋春弥先生が、それぞれ食品生理機能学分野准教授、同分野助教に配置換えとなりました。令和3年1月1日付で酵素化学分野助教・児島憲二先生が姫路獨協大学薬学部医療薬学科准教授に、同年4月1日付で分子応答機構学分野准教授・増田誠司先生が近畿大学農学部食品栄養学科教授に、食品生理機能学分野助教・松村成暢先生が大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科准教授に、農産製造学分野助教・榊田哲哉先生が龍谷大学農学部食品栄養学科教授に、ご転任されました。また、同日付で食品分子機能学分野特定助教・野村亘先生が応用生命科学専攻にご転出されました。さらに、令和3年4月1日付で食品生理機能学分野助教として横川拓海先生が、同年4月16日付で栄養化学分野助教として小栗靖生先生が、ご着任されました。新たな教育・研究体制となり、さらなる発展に日々努力しているところであります。

産学官でご活躍の会員の方々と情報・親睦を深める組織としての中陽会を益々発展させるため、今後も会員の皆様の格別なご支援とご協力、そしてご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。末筆になりましたが、皆様の益々のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

(渡邊大輔)

◎畜産学科(はくび会)

はくび会、かすみ会、カトレア会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。応用動物系の5分野(動物遺伝育種学分野、生殖生物学分野、動物栄養科学分野、生体機構学分野および畜産資源学分野)については、昨年度から今年度にかけて教員の退職や異動はなく、引き続き教育・研究に当たっております。以下は本年度はくび会副会長の仲野彰祐君

(生体機構学分野・修士2回生)からの活動報告です。

一昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事が相次いで中止となっております。昨年度はその流れが止まる事を願っていましたが、新型コロナウイルスの影響は収まることなく、例年3月に開催予定のはくび会総会が中止となり、応用動物系の卒業生、修士生のための送別会も見送る運びとなりました。しかし一方で昨年度は、感染対策を講じながら2年ぶりとなる京都大学全体の卒業式が実施され、各研究室においては、盛大に先輩卒業生を送り出すとまではいかなくとも、花束や色紙を直接渡す等、可能な範囲で先輩方を送り出す事が出来たと思います。その他、関西畜産学会がオンライン開催となったり、新型コロナウイルスに注意を払いつつ4回生実験が対面で実施されたりと、状況が二転三転する中、先生方だけでなく各研究室の学生も日々奮闘しておりました。

また、はくび会として例年活動しております畑での栽培についてですが、生殖生物学分野を中心として各研究室の有志を集め、少人数ではありますが感染拡大に気を付けながら栽培を行っております。加えて、生体機構学分野としては、応用動物系ソフトボール大会連覇に向けて2年ぶりの開催を心待ちにしていた(実際に自分で練習しているメンバーもいた)のですが、こちらは中止となってしまいました。京都大学全体として体育会の活動も制限されている状況なので仕方ありません。連覇記録は更新中という事で、来年度の大会開催に期待です！

今後は教員の方々、学生、それぞれのCATEGORYでワクチン接種が可能になったりと、集団免疫獲得、そしてウイルスの収束に向かっていくかと思います。現在の状況が一刻も早く良くなり、応用動物系全員で親睦を深め、日々の生活を楽しむことが出来るようになればいいなと願っております。そのために、はくび会として新しい大学での生活の仕方を日々模索していければ、と考えているところです。

(熊谷 元)

◎熱帯農学専攻 (熱田会)

熱田会のみなさまにおかれましては、コロナ禍のなか、外にも出かけにくい日々をお過ごしのことと思います。外に出かけにくいという状況は、熱帯農学専攻の関連研究も直撃しております。熱帯に行ってなんぼという研究室も少なくありませんから。しかし、行けないものは行けません。国内でできることをなんとか探して行っておりますが、足が遠ざかると、おのずと関心も薄れがちです。世界を俯瞰する視点が不可欠ですが、いまグローバル化が進んでいるように見えて、意識のなかではむしろローカル化が進行中かもしれません。オンラインで世界とつないでみて、意識は目の前の現実引張られます。これは好ましくない傾向ですね。

昨年の今ごろは、正直こんなに長引くとは思っていませんでした。この一年、大学の雰囲気も随分と変わりました。オンライン授業や行事の中止など、みなさまのお耳にもさまざまなニュースが届いていることと思います。大学の周りも変わりました。「お酒を提供する飲食店」が大きなダメージを受けているのは報道の通りと思いますが、学生街の定食屋さんにも影響ないはずありません。オンライン授業では、大学に来る学生数は当然減少します。お店もピンチです。たいして応援にもなりませんけれど、馴染みのお店に通ったりします。それでもここ1、2年で、たくさんのお店がなくなり、また入れ代わったりしました。とくに古くからのお店がなくなると、とても残念な気分になります。しかし、新しいお店もできています。ラーメン屋さんや粉もん屋さんが増えたような気がします。また、中華料理店やエスニック料理店も増えたように思います。京大においでの際は、百万遍界隈の飲食店にも足を運んでみられてはいかがでしょうか。

弁当の回数が増えました。このごろ弁当というものに関心が向きます。NHKのサラ飯という番組があり、気に入っております。MCの中井喜一さんが、コロナで取材ができないからすぐに打ち切りになるだろうと思ったそうですが、いやいやそんなことはありません。空前の弁当ブームです。お持ち帰りも含め、研究室で弁当を食べることはみなさん多いことでしょう。そのことがご近所の飲食店から足を遠ざけているようで、心苦しいところでもあります。やはりローカル化はよくありませんね。少しでも外に出ようと思います。

会員のみなさまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。(ひ)

(樋口浩和)

京都大学農学部令和3年度入学生保護者懇談会

毎年恒例となっていました京都大学農学部入学生保護者懇談会ですが、昨年はコロナウィルス感染防止のため入学式が中止となりましたので、入学生保護者懇談会も中止となりました。今年は4月7日(水)に入学式が挙行されましたが入学生本人のみの参加となりましたので、入学生保護者懇談会はWEBのビデオ配信での開催となりました。

例年は農学部の新入生が農学部全体のガイダンスを受けている時間帯に、保護者の方々に集っていただき新入生のこれからについての情報等を教員から提供し、その後に本学院生も加わり保護者の方々から出される質問に答えるという形式で進めており、会場の益川ホールが満員となる170～180名の参加があり、好評を得ていました。本年度は4月7日から5月7日まで1か月間、四明會ホームページで公開し、100名以上の方が閲覧されました。

懇談会の内容は、四明會会長(農学部長)澤山茂樹先生のご挨拶、農学研究科副研究科長 田尾龍太郎「農学部カリキュラムの特徴」、農学研究科森林科学専攻 高野俊幸先生「卒業後の就職について」、農学研究科副研究科長 北島薫先生「教員からみた学生生活」の講演ビデオ4本及び四明會についての説明(静止画)で、保護者の方々への理解も深まったと考えます。また、アンケートの回答では、ほとんどの方が懇談会の講演の内容に「満足している」との結果が出ています。しかし、ビデオ配信での懇談会は初めての経験であり行き届かないところがあったと思います。今後、さらなる内容の改善策を検討し、より充実した懇談会となるようにしていく必要があると考えます。

最後に、四明會では恒例となっておりますソフトボール大会、各同窓会への支援、農学部・農学研究科OB・OGを招聘しての就職セミナーや業界・企業に関する研究セミナー等の行事を引き続き実施・開催して参ります。今後とも四明會へのご理解とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(四明會副会長 田尾龍太郎)

四明會令和2年度決算及び令和3年度予算

収 入 の 部

(円)

科 目	令和2年度決算		令和3年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	6,000,000	5,865,500	6,000,000
名 簿 売 払 代	1,200,000	33,000	1,200,000
広 告 料	1,000,000	0	700,000
V I S A 募 集 手 数 料	1,000	0	1,000
V I S A 提 携 手 数 料	250,000	221,635	220,000
預 金 利 息	200	182	200
寄 付 金 及 び 雑 収 入	5,000	47,000	5,000
小 計	8,456,200	6,167,317	8,126,200
前 年 度 繰 越 金	8,516,108	8,516,108	8,425,815
合 計	16,972,308	14,683,425	16,552,015

支 出 の 部

(円)

科 目	令和2年度決算		令和3年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
名 簿 印 刷 製 本 費	2,900,000	0	2,700,000
名 簿 発 送 費	338,000	171,600	338,000
会 報 等 印 刷 ・ 発 送 費	2,100,000	2,135,389	2,100,000
球 技 大 会 費	130,000	0	130,000
会 議 費	150,000	20,000	150,000
謝 金	20,000	0	20,000
通 信 費	60,000	48,493	50,000
消 耗 品 費	100,000	75,769	80,000
光 熱 水 料 ・ 借 料	220,000	197,133	200,000
振 込 等 手 数 料	500,000	556,406	620,000
備 品 費	200,000	0	500,000
人 件 費	3,050,000	3,049,820	3,050,000
雑 費	30,000	3,000	5,000
予 備 費	—	—	1,000,000
小 計	9,798,000	6,257,610	10,943,000
次 年 度 繰 越	7,174,308	8,425,815	5,609,015
合 計	16,972,308	14,683,425	16,552,015

四明會会員数一覧

2021/7/1現在

学科・専攻	卒業・修了年	合計	物故	学外	学内	住所無効	海外
農学	昭和2～平成13	1,765	653	792	10	266	44
林学	昭和2～平成11	1,674	590	702	18	330	34
農芸化学	昭和2～平成13	2,966	950	1,454	29	461	72
農林生物学科	昭和2～平成17	987	305	463	18	172	29
農業工学科	昭和2～平成14	2,031	487	1,131	16	338	59
農林経済学科	昭和2～平成13	2,617	1,065	888	12	610	42
水産学	昭和25～平成12	1,119	205	507	9	372	26
林産工学科	昭和44～平成12	1,005	52	589	29	297	38
食品工学科	昭和46～平成12	1,246	34	876	21	267	48
畜産学	昭和51～平成12	647	17	366	12	222	30
熱帯農学専攻	昭和58～平成10	90	4	27	5	17	37
生物生産科学科資源生物科学コース	平成11～平成19	484	1	216	12	244	11
生物生産科学科生産システム学コース	平成11～平成21	112	1	64	2	43	2
生物機能科学科応用生命科学コース	平成11～平成19	546	4	299	15	219	9
生物機能科学科生物材料科学コース	平成11～平成21	147	1	72	5	68	1
生産環境科学科生物環境科学コース	平成11～平成17	146	0	59	5	79	3
生産環境科学科地域環境創造学コース	平成11～平成17	184	0	88	5	89	2
生産環境科学科生物資源経済学コース	平成11～平成19	168	1	62	2	103	0
資源生物科学科	平成17～	1,597	2	658	215	719	3
応用生命科学科	平成17～	855	2	439	110	287	17
地域環境工学科	平成17～	613	4	378	61	169	1
食料・環境経済学科	平成17～	532	0	272	31	228	1
森林科学科	平成17～	948	1	339	112	492	4
食品生物科学科	平成17～	596	1	300	62	229	4
農学専攻	平成11～	228	0	98	8	104	18
森林科学専攻	平成10～	449	1	158	29	202	59
応用生命科学専攻	平成11～	697	2	412	28	206	49
応用生物科学専攻	平成10～	403	0	160	18	198	27
地域環境科学専攻	平成9～	427	0	153	18	184	72
生物資源経済学専攻	平成9～	242	0	76	18	123	25
食品生物科学専攻	平成15～	235	2	101	11	92	29
合計		25,756	4,385	12,199	946	7,430	796

農学科から畜産学科：学部卒業、修士修了、博士修了、特別会員

熱帯農学専攻、農学専攻から食品生物科学専攻：修士修了、博士修了、特別会員

生物生産科学科資源生物科学コースから食品生物科学科：学部卒業

会費納入のお願い

2021年度(2021年4月～2022年3月)四明會年会費1,500円を同封の払込取扱票(A4サイズ、宛名票とで同じシート)で、コンビニまたは郵便局から振り込みくださるようお願いいたします。

60歳以上の方でご希望される場合は終身会費(2万円)の制度もございます。どうぞご利用ください。

会費納入方法については同封の「2021年度四明會会員状況調査と会費納入について」をご覧ください。ご不明の場合は事務局までお問合せください。

「京都大学農学部四明會 VISAカード」について

「四明會VISAカード」はご存じでしょうか。三井住友カード(株)と提携して発行しているクレジットカードで、デザインに農学部正門を取り入れた親しみやすく、ステータスと独自性にあふれたものです。このカードはVISAカードとして、広く国内、海外の加盟店でご利用いただけ、ご利用の都度提携手数料が四明會に入ります。昨年は約22万円の手数料が入りました。四明會の会費、名簿代もこのカードで支払いできます。今年1月からカードの加入がインターネットからできるようになりました。未加入の方はぜひご加入ください。

右のQRコードから入会ページにアクセスできます。
四明會のホームページにもリンクを設けています。



四明會会則

(平成30年4月18日 一部改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部（以下「農学部」という。）の卒業生及び京都大学大学院農学研究科（以下「農学研究科」という。）修士課程修了者、または博士後期課程修了者（研究指導認定退学者を含む）を本会の正会員とする。
- 2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教官、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。
- 3 ただし正会員であるものは除く。
- 3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名 副会長1名 監事2名
常任委員6名以上 委員10名以上
- 第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
- 2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
- 3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
- 第7条 会長は農学部長をもってあてる。
- 2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
- 第8条 常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。
- ただし留任はさまたげない。
- 第9条 会長は本会を代表し会務を統括する。
- 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。
- 常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
- 第10条 本会に顧問をおくことができる。
- なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。
- 第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
(1) 事業計画
(2) 予算及び決算に関する事項
(3) 基本財産に関する事項
(4) 会費に関する事項
(5) 寄付金その他収入に関する事項
(6) 会則の変更
- 第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。
- ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
- 第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
- 第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。
- 2 ただし可否同数の場合は議長が決定する。
- 第16条 2 会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
- 2 役員会は会長が招集し、議長になる。
- 2 役員会の事務は事務局長が処理する。
- 第17条 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
- 会費は会員から徴収し、金額はそれぞれ次のとおりとする。
- 第19条 (1) 年会費 正会員、特別会員とも1,500円
(2) 終身会費 60歳以上で希望する者20,000円
(3) 学生会費 (入会金及び在学中の会費)
学部生10,000円 大学院生5,000円
- 第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
- 第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
- 第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。
- 附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成30年4月18日より施行する。

同窓会・クラス会支援制度の報告について

平成30(2018)昨年より同窓会・クラス会支援制度がスタートし、その報告を掲載しています。昨年はコロナウィルスの影響で同窓会・クラス会の開催が少なかったようで、今回は残念ながら報告がありません。

今後も会員の皆様の近況等を掲載し、紙面の充実を図りたいと考えています。皆様からのご寄稿をお待ちしています。

同窓会・クラス会支援制度について

同窓会活動の活性化を図るために、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援します。

- 【条 件】 ①10名以上の参加者があり、当該年度の年会費または終身会費の納入者が参加していること
②参加者名簿、開催報告、写真を提出すること（開催報告、写真は四明會たより、ホームページに掲載する）
③学科同窓会が主催するものは対象外

【支 援】 1回につき1万円とし、年1回を限度とする。

- 【手 続 き】 ①四明會事務局に上記の書類を添えて申請する。
②四明會事務局において審査の後、指定口座に振り込む。

安満遺跡公園を訪ねて

木津川市へ移転後の高槻農場跡地は、高槻市により国宝級の歴史資産である弥生時代の安満遺跡を保存・活用し、防災機能を備えた、緑豊かな公園への整備が進められ、令和3年(2021)3月27日に安満遺跡公園として全面開園しました。6月某日、緊急事態宣言発令中でしたが、高槻農場での勤務経験がある事務職員の小西昌宏氏とともに訪れてきました。

小西氏の回想記とともに変貌を遂げた姿をお楽しみください。安満遺跡公園の詳しいことはホームページをご覧ください。(事務局)



私は、34年前の昭和62年4月から3年間、京都大学農学部附属高槻農場に、会計掛職員として勤務しました。当時の農場は、水田部、果樹部、蔬菜部、畜産部(4年後に廃止)また、1km離れた場所に古曽部温室(現在はマンション)の5部門があり、水田では米、果樹部では、桃、梨、柿等、蔬菜部ではアスパラ、イチゴ、白菜等の数々な生産物がありました。

農場では通常の会計業務の他に、生産物の出荷や牛の売り払い等に伴う価格設定など独特な仕事があったことや、繁忙期の収穫、畜魂祭、収穫祭、収穫物の販売、市場へのお手伝い等、先生や技術職員に教わりながら楽しく仕事をしていた思い出があります。その農場も平成28年3月末で高槻市から、現在の京都府木津川市に移転になり、跡地が高槻安満遺跡公園へと変身を遂げました。通勤途中に、電車の窓から変化していく農場跡地の景色を見ながら、切られていく果樹等の木々をさみしい思いで見っていました。

今回、安満遺跡公園を初めて訪問しました。農場本館に入ると、廊下、2階への階段や講義室も昔の面影を残し、素敵なレストランへと変貌を遂げ、技官室は展示室に、果樹部の選果室や農機具庫は体験館に、外観そのまま生まれ変わっていました。水田、蔬菜畑の跡地には、メインのポーネルンド Park Center(子供の遊び施設)や、芝生広場、ビオトープが作られ、果樹園の跡地には、SAKURA広場やステージ、膨大な原っぱが広がり、たくさんの利用者の憩いの場や運動施設となって、市内だけでなく、近隣の市町村からもたくさんの子供連れ家族や、学生グループ等でにぎわっており、改めて訪ねてみると、懐かしさも含め農場の広さが実感できました。

(小西 昌宏)

「四明会たより」への寄稿のお願い

「四明会たより」は年1回の発行です。今後も紙面の充実を図りたいと考えています。各地域や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えていますので、ご寄稿をお待ちしています。

また、こんな記事を読みたい等のご希望がありましたら事務局までお知らせください。

(締切随時、400字程度、写真があれば添えてください) E-mail: shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページについて

ホームページではいろいろな活動の告知や報告も掲載しています。随時更新していますので是非ご覧ください。

URL : <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/> (「四明会」で検索)



メインエントランス(西南角)



メインエントランスから本館方面



ポーネルンド(元蔬菜圃場)



本館南側原っぱ(元果樹温室・水田)



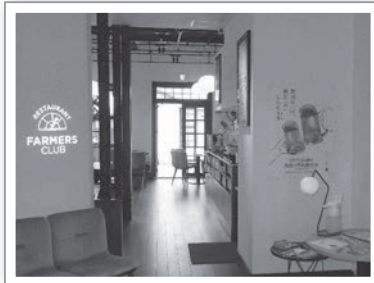
歴史拠点となった本館等の建物



本館周辺の復元された環濠



本館外観



本館1階レストラン(元助教授・教授室・図書室・宿直室)



本館階段



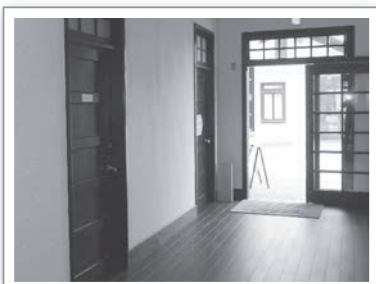
元講義室入口



2階元講義室



元講義室から



本館事務室前廊下



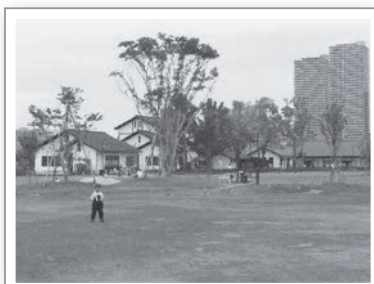
体験室となった元事務室



展示館となった元技官室



体験館となった選果室と農機具庫



東の広場(元水田)



復元された弥生時代の水田

農学部・農学研究科学生概要

1. 学生等数（令和3年5月1日現在）

(1) 学部

学 部 学 生				合 計
1年次	2年次	3年次	4年次	
310	309	311	376	1,306

(2) 大学院

修 士 課 程			博 士 後 期 課 程				合 計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計	
318	355	673	69	58	99	226	899

(3) 科目等履修生等

科目等履修生	特別聴講学生	科目等履修生(院)	特別聴講学生(院)	特別研究学生(院)	研究生(院)	研修員
8	0	3	0	7	13	1

2. 入学状況（令和3年度）

(1) 学 部

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
一般入試	—	475	220	695	185	113	298
特色入試	—	43	37	80	4	7	11
計	300	518	257	775	189	120	309

(2) 大学院

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
修 士 課 程	303	222	152	374	178	123	301
博士後期課程	90	38	20	58	38	19	57

3. 入学試験合格者最高点・最低点（総点）（令和3年度・一般入試）

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	752.71	593.96	638.22

4. 学部卒業者・大学院修了者・博士学位授与者数

(1) 学部卒業者数

区分	令和2年度	累計
旧制（昭和23～昭和29.3）	—	3,392
新制（昭和28.3以降）	299	21,185
合計	—	24,577

(2) 大学院修了者数

修 士 課 程	
令和2年度	累計
313	11,266

(3) 博士学位授与者数

区分		令和2年度	累計
旧制		—	641
新制	博士課程修了者	44	2,462
	論文提出者	7	2,897
合計		51	6,000

5. 学部卒業者・大学院修了者等の産業別就職状況

(1) 学部（令和3年3月卒業者）・大学院（令和2年度修了者・研究指導認定退学者）

産 業		区 分		学 部		修士課程		博士後期課程	
				男	女	男	女	男	女
製造業	農・林・漁業					1			
	鉱業・建設業			2		6	2		
	食料品・飲料・たばこ				3	22	14		1
	繊維工業				1	3	1		
	印刷等			1					
	化学工業・石油				1	26	15	4	
	鉄鋼業・金属								
	機械・電気			2	1	12	8		
	その他					3	1	1	
サービス業	電力・ガス					3	1		
	情報通信業・運輸業			10	5	20	11	1	
	卸売・小売業			1	1	10	3		
	金融・保険業			6	3	11	3		
	学術研究、専門・技術			3	1	19	14	6	2
	宿泊・飲食業					1			
	その他				1	4	9		
教育	学校教育			1		3	1	15	4
	学習支援業								
公務	国家公務			2	2	6	3		
	地方公務			2	1	9	5	2	
上記以外				1					
男子計			女子計	31	20	159	91	29	7
総合計				51		250		36	

6. 国別外国人留学生数

令和3年5月1日現在

国 名	学部学生	修士課程	博士後期課程	研究生等	合計
アゼルバイジャン		1			1
アフガニスタン			2		2
イラン			1		1
インド			2		2
インドネシア	1	20	9		30
エジプト			2		2
カメルーン			1		1
カンボジア		1	3		4
ケニア		1	2		3
タイ		3	4		7
ナイジェリア			1		1
バングラディシュ		1	4	1	6
フィリピン		1			1
ブラジル		1			1
ベトナム		1	3		4
マレーシア		3	2	1	6
ミャンマー		5	3		8
モロッコ		1			1
韓国	4	2	3		9
台湾	1	7	8		16
中国	5	57	45	12	119
米国		1	4		5
香港	1				1
総 計	12	106	99	14	231

個人情報保護について

四明會名簿は会員の親睦を目的として作成しています。名簿の利用者・対象者を限定しており、目的外の使用は固く禁じています。皆様の個人情報及び皆様からいただいた情報の管理、取扱いに際し、関連する法令を厳守し、厳重に管理いたします。

農学研究科教員人事

令和2年8月1日					
山崎 彬	採用	附属農場			助教
中嶋 洋	昇任	地域環境科学専攻	生物生産工学講座	農業システム工学分野	教授
令和2年8月31日					
大石 和男	辞職	生物資源経済学専攻	比較農史農学論講座	農学原論分野	助教
令和2年9月30日					
村上 章	辞職	地域環境科学専攻	地域環境開発工学講座	施設機能工学分野 (10月1日付け京都大学理事・副学長就任)	教授
令和2年10月1日					
片山 礼子	採用	地域環境科学専攻	比較農業論講座		准教授
近藤 友大	採用	地域環境科学専攻	生産生態科学講座	熱帯農業生態学分野	准教授
毛利 晋輔	採用	応用生物科学専攻	海洋生物生産学講座	海洋生物生産利用学分野	特定助教
澤山 茂樹	併任	大学院農学研究科長・農学部長			
北島 薫	併任	教育研究評議会評議員			
田尾 龍太郎	併任	大学院農学副研究科長			
橋本 渉	併任	大学院農学副研究科長			
谷 史人	併任解除	大学院農学副研究科長			
令和2年11月1日					
小野 肇	昇任	応用生命科学専攻	応用生化学講座	化学生態学分野	准教授
木村 泰久	昇任	応用生命科学専攻	応用生化学講座	細胞生化学分野	准教授
令和2年12月31日					
児島 憲二	辞職	食品生物科学専攻	食品生命科学講座	酵素化学分野	助教
令和3年1月1日					
SIANIPAR, Corinthias Pamatang Morgana	採用	地域環境科学専攻	地域環境管理工学講座	農村計画学分野	特定助教
令和3年1月16日					
白石 晃将	採用	応用生命科学専攻	応用微生物学講座	制御発酵学分野	助教
令和3年2月1日					
宋和 慶盛	採用	応用生命科学専攻	生物機能化学講座	生体機能化学分野	助教
令和3年3月31日					
榊田 哲哉	辞職	食品生物科学専攻	食品生産工学講座	農産製造学分野	助教
松村 成暢	辞職	食品生物科学専攻	食品健康科学講座	食品生理機能学分野	助教
間合 絵里	辞職	附属農場			特定助教
富永 達	定年退職	農学専攻	耕地生態科学講座	雑草学分野	教授
松村 康生	定年退職	農学専攻	品質科学講座	品質評価学分野	教授
植田 充美	定年退職	応用生命科学専攻	応用生化学講座	生体高分子化学分野	教授
中川 好秋	定年退職	応用生命科学専攻	応用生化学講座	生物調節化学分野	准教授
宮下 直彦	定年退職	応用生物科学専攻	資源植物科学講座	植物遺伝学分野	准教授
石井 統也	任期満了	農学専攻	品質科学講座	品質評価学分野	特定助教
SIANIPAR, Corinthias Pamatang Morgana	任期満了	地域環境科学専攻	地域環境管理工学講座	農村計画学分野	特定助教
野村 亘	任期満了	食品生物科学専攻	食品健康科学講座	食品分子機能学分野	特定助教
令和3年4月1日					
及川 彰	採用	農学専攻	品質科学講座	品質評価学分野	教授
黒川 俊二	採用	農学専攻	耕地生態科学講座	雑草学分野	教授
伊福 健太郎	昇任	応用生命科学専攻	分子細胞科学講座	植物栄養学分野	教授
吉田 健太郎	採用	応用生物科学専攻	資源植物科学講座	植物遺伝学分野	教授
松下 秀介	採用	生物資源経済学専攻	農企業経営情報学講座	経営情報会計学分野	教授
木下 政人	昇任	応用生物科学専攻	海洋生物生産学講座	海洋生物機能学分野	准教授
峯 彰	採用	応用生物科学専攻	植物保護科学講座	植物病理学分野	准教授
坂梨 健太	採用	生物資源経済学専攻	比較農史農学論講座	農学原論分野	准教授
横川 拓海	採用	食品生物科学専攻	食品健康科学講座	食品生理機能学分野	助教
堺 俊之	採用	応用生物科学専攻	資源植物科学講座	栽培植物起原学分野	助教
高田 守	採用	応用生物科学専攻	植物保護科学講座	昆虫生態学分野	助教
大野 健太郎	採用	農学専攻	園芸科学講座	果樹園芸学分野	特定助教
林 泰佑	採用	農学専攻	作物科学講座	作物学分野	特定助教
秋津 元輝	併任	大学院農学副研究科長			
北島 薫	併任	大学院農学副研究科長			
秋津 元輝	併任	教育研究評議会評議員			
令和3年4月16日					
小栗 靖生	採用	食品生物科学専攻	食品健康科学講座	栄養化学分野	助教

不要となった名簿の処分について

新刊が発行され、以前の名簿が不要となった方は、四明會事務局までご返送ください。責任をもって処分いたします。
(申し訳ございませんが送料はご負担願います。)

京都大学農学部教育研究基金
京都大学農学研究科附属農場基金
京都大学農学部100周年記念事業基金
醸金・事業状況の報告

会員の皆様には昨年度も各基金に多くの醸金を頂き、誠にありがとうございました。

農学部教育研究基金は87件の寄付を頂いています。収支は下記の通りです。これまでもお伝えした通り、大学院生の渡航援助を強化しており、在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと旅費を支援することになっています。しかし昨年度はコロナウィルス感染防止のため国際研究集会等がオンライン開催となり、5名の学生に登録費等の助成をするに留まりました。「芦生（向山）維持管理費」は平成24年度に未来農業国際研究財団から寄付頂いた山林の維持のために使用しています。本研究科国際交流室が実施する留学生や外国人研究者のための様々な行事の実施補助に使用していた「国際交流室行事用経費」は、これもコロナウィルス感染防止のため行事が実施できず、昨年度は支出なしとなりました。その他に平成30年度から35歳以下の若手特定教員4名を採用していますが、その給与にも使用しています。

附属農場基金につきましても47件の寄付を頂きました。心からお礼を申し上げます。平成28年度に移転は終了しましたが、今後、果樹が育ち自己収入が十分に得られるようになるまでには、暫く時間を要するようですし、施設・設備の充実もこれから時間をかけて進めていく必要があります。今後とも、皆様の支援をお願い致します。

農学部100周年記念事業基金は、令和5（2023）年11月28日に記念すべき100周年を迎えるにあたり、農学部の卒業生や縁の深い方々と共に100年の歴史と今後の展望について語り合う機会として、また、日本の農学の将来を担う若手研究者たちの国際的飛躍の契機とすることを願い、様々な記念事業を実施することを目的として令和2年3月16日に設立されました。初年度は225件の寄付を頂きました。

本学ならびに本研究科・本学部がおかれている財政状況は厳しさを増すばかりです。そのような状況下で、皆様からご支援いただけるのは誠に心強く、大変ありがたく存じております。引き続き、強力なお力添えを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

令和3年8月

京都大学農学研究科長・農学部長 澤山 茂樹

農学部教育研究基金

収支（平成17～令和2年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等 金額（円）	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）			
平成17	370	10,339,000	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	400,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	2,111,951	100,096,684	
平成28	67	3,559,360	3,657,650	99,998,394	
平成29	59	1,043,700	2,267,951	98,774,143	
平成30	81	2,200,100	3,224,966	97,749,277	
令和元	94	4,402,160	25,641,616	76,509,821	
令和2	87	2,170,700	1,528,890	77,151,631	
（累計）	1,928	124,864,301	47,712,670	77,151,631	

令和2年度執行内訳

事 項		金額（円）	備 考
支出	国際研究集会等参加助成金	128,573	詳細は次ページ参照
	芦生研究林（向山）維持管理費	100,000	
	その他	1,300,317	特定教員（若手）給与
計		1,528,890	

国際研究集会等参加助成金内訳

氏 名	学 年	研究集会名	金額(円)	派遣先
MAGERO EILEEN JOAN	修士1回生	The 5th International Conference on Agricultural and Food Engineering (CAFEi2020)	20,428	(マレーシア)
ヤ ン ヤ ン	博士1回生	The 3rd Asian Horticultural Congress 2020	44,577	(タイ)
重 岡 徹	修士2回生	International Symposium on Olfaction and Taste (ISOT) 2020	8,294	(アメリカ合衆国)
勝 俣 沙 智	博士2回生	71st Annual Meeting of European Federation of Animal Science	28,136	(ポルトガル)
瀬 戸 口 暁	博士3回生	71st Annual Meeting of European Federation of Animal Science	27,138	(ポルトガル)
		計	128,573	

令和2年度入金者一覧

(五十音順)

相川 哲	片山 保志	柴藤 勝也	西谷 崇	三山 孔明
赤松 美紀	加藤 俊夫	菅原 道泰	西村 一三	村井 耕二
浅沼 善次郎	加納 健司	田尾 龍太郎	野口 修	村上 修一
荒井 修亮	茅原 正毅	高木 圭子	橋本 涉	森本 茂俊
池内 長三	川西 裕康	高田 長武	濱岡 陽	安井 孝
池田 昇司	川村 直道	高田 勉	人見 清隆	保川 清
池田 稜	菊間 恵梨子	高橋 伊武	廣田 雅司	柳井 卓
石永 正隆	岸野 保彦	高橋 強	福永 拓也	柳井 稔
市川 英治	木ノ内 智	高橋 徹	藤田 芳広	矢野 俊彦
井上 樹芳	木村 昭夫	竹田 周	伏見 清昭	矢野 秀雄
井上 浩	木村 勉	田中 準一	藤原 良一	山口 務
井村 周一	久馬 一剛	田中 廉	古田 保	山田 隆造
岩木 成士	小谷 明司	中野 尚志	堀江 大輔	渡辺 大輔
上野 正博	小寺 俊一郎	永野 由祐	堀之内 和美	渡辺 弘之
岡松 直勝	小松 祐一	中山 大将	増田 敬子	渡邊 紹裕
小澤 雅子	斎藤 健	鳴澤 成泰	町田 勝彦	
落井 康裕	坂口 守彦	西澤 健治	松本 英明	
掛川 博文	佐藤 淳	西田 律夫	宮川 恒	

以上 87 名

農学研究科附属農場基金

収支（平成25～令和2年度）

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	金額（円）		
平成25	97	3,773,000	0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960	0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000	2,069,280	4,400,680	
平成28	40	813,400	0	5,214,080	
平成29	33	592,900	0	5,806,980	
平成30	37	852,600	1,882,275	4,777,305	
令和元	34	2,450,000	2,420	7,224,885	
令和2	47	1,029,000	0	8,253,885	
(累計)	416	12,207,865	3,953,975	8,253,890	

令和2年度執行内訳

事 項		金額（円）	備 考
支出	—	0	
	計	0	

令和2年度入金者一覧

(五十音順)

赤松 美紀	久馬 一剛	中野 尚志	福永 拓也	三山 孔明
池内 長三	小谷 明司	永野 由祐	藤田 芳広	呂本 太一
池橋 宏	小寺 俊一郎	鳴澤 成泰	伏見 清昭	森塚 直樹
板村 裕之	佐藤 淳	西谷 崇	藤原 良一	矢野 秀雄
市川 英治	菅原 道泰	西村 一三	堀江 大輔	山崎 篤
落井 康裕	杉浦 明	仁田 薫	町田 勝彦	山田 隆造
風間 宏枝	田尾 龍太郎	丹羽 淳	松本 晋也	渡邊 紹裕
岸野 保彦	高木 圭子	橋本 享子	水落 章	
木ノ内 智	竹田 周	橋本 涉	三田村 啓子	
木村 勉	田中 廉	平松 征男	宮川 恒	

以上 47 名

農学部100周年記念事業基金

収支（令和元～2年度）

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	金額（円）		
令和元	0	0	0	0	令和2年3月16日付設置
令和2	225	6,661,400	0	6,661,400	
（累計）	225	6,661,400	0	6,661,400	

令和2年度執行内訳

事 項	金額（円）	備 考
支出	—	0
	計	0

令和2年度入金者一覧

（五十音順）

青野 俊一	笠井 利之	坂田 義樹	名知 和男	古谷 真優美
赤松 美紀	鍛冶 義延	酒見 莞爾	並河 清	保坂 文一
秋津 元輝	柏熊 正一	佐藤 雅彦	鳴澤 成泰	堀 智博
秋元 弘	片岡 道彦	澤山 茂樹	縄田 栄治	堀内 紀男
浅居 良輝	片山 保志	塩見 和雄	難波 博哉	牧 正敏
朝倉 万琴	可児 千鈴	茂原 泉	西 良知	牧之段 保夫
安達 直樹	代表取締役 吉岡 正博	信田 信行	西田 主計	正井 聡美
荒井 修亮	鎌田 篤美	篠原 俊清	西田 智子	松尾 光郎
荒木 久雄	鎌田 ゆかり	島尾 周作	西田 律夫	松谷 篤典
粟田 浩	神谷 正剛	白石 大貴	丹羽 淳	松永 和紀
安藤 基成	神谷 裕子	菅原 道泰	野口 修	松村 一郎
井口 隆史	茅原 正毅	杉浦 明	野沢 秀雄	松村 真知子
池田 雅充	河合 孝紀	杉岡 弘基	野田 公夫	松村 由美
石江 政行	川口 儀八良	清山 高正	萩本 宏	眞鍋 雄一郎
石黒 覚	川端 智雄	千本木 怜二郎	橋田 有紗	水上 敦夫
石田 恭平	河原 行弘	祖田 修	橋詰 芳範	南井 善尋
石田 博樹	河村 能夫	高木 信雄	橋本 直樹	麦林 良匡
石田 雅昭	河村 律子	高司 光枝	橋本 秀雄	村木 照忠
伊東 平隆	河盛 幹雄	高橋 伊武	橋本 渉	望月 雅俊
井上 健一	岸本 純一	高橋 徹	畑 武志	森 章浩
井場 康平	木曾 邦明	高橋 正人	服部 康二	森 季雄
今井 敏雄	北出 俊昭	竹村 光雄	波部 豪	森 隆禧
今田 智彦	木村 好伸	只木 良也	濱岡 陽	森 光昭
今津 研一	金馬 礼司	田附 康彦	早崎 勉	森本 茂俊
入江 隆彦	日下 信義	田中 輝夫	林 勇夫	諸泉 利嗣
岩井 俊郎	久保 香織	田中 宏明	林 長史	八木 健吉
岩木 成士	久守 藤男	田中 泰行	林 茂夫	安江 多輔
岩崎 幸邦	倉田 隆史	田邊 公一	林 孝洋	柳井 稔
上田 穰	黒田 博史	林野井 雅彦	林田 直樹	山口 貴広
植田 芳樹	桑島 士郎	田村 勇司	原 完	山崎 稔
上中 健夫	小泉 恵二	辻井 悠希	原 弘道	山田 昌宏
上原 章敬	河内 英一	辻松 加寿美	治多 伸介	山本 愛二郎
牛野 正	小岸 妙子	土田 志郎	久田 洋二	(有)プレスト
内田 勉	小嶋 隆一	土井 昂大	日野 貴文	横田 浩之
浦崎 宏幸	小清水 弘一	土岐 眞一郎	平居 吉裕	吉田 岳志
大池 智士	小谷 明司	栃原 邦匡	廣瀬 忠爾	吉田 誠
大石 文夫	小西 秀之助	外村 辨一郎	廣田 雅司	吉村 実
大瀬 雅人	小林 厚司	中井 章能	広谷 博史	米田 耕司
太田 泰彦	小林 啓作	中野 實	深津 光生	若林 宏
太田 雄造	駒野 徹	中野 雄介	藤井 繁佳	涌田 隆
大谷 暢良	小森 正幹	中道 宏	藤野 正也	和田 茂彦
大西 近江	小山 洋一	中村 彰宏	伏見 清昭	和田 卓己
岡田 雅隆	近藤 剛	中村 皖一	藤原 良一	和田 文男
押田 正義	佐伯 博道	中山 幸夫	舟越 日出夫	渡邊 紹裕
小原 隆	坂口 守彦	中山 安	古田 保	渡辺 康光

以上 225 名

農学部創立100周年記念事業への資料等提供について

農学部創立100周年記念事業(2023年)にむけて、昔の農学部の校舎や行事の写真等関連の資料を収集しています。お持ちの方で、提供していただける方は、ご一報いただければ幸甚です。

第16回 京都大学ホームカミングデイ2021

■ リアルとオンラインのハイブリッド開催

【開催日程】

リアル開催日：2021年11月6日(土)の1日(会場：百周年時計台記念館)

オンライン公開期間：2021年11月6日(土)から2021年11月30日(火)まで

【メインプログラム(予定)】

リアル開催のイベント

- ◆ 講演会、音楽会(音楽系サークルを予定)
- ◆ 施設見学(清風荘、図書館、博物館、尊攘堂)

オンライン用コンテンツ

- ◆ 講演会、音楽会のオンデマンド配信
- ◆ 時計台記念館、附属図書館の建物探訪
- ◆ 京大キャンパスのドローン映像
- ◆ 懸賞付きクイズ など

※リアル開催とする場合は、講演会、音楽会、清風荘見学は事前申込・抽選制とし、入場制限等を実施する予定です。開催が決まりましたら、申し込み方法等の詳細を京都大学HP・京都大学同窓会HP・Facebookに掲載いたします。

※上記のイベント内容は現時点の予定であり、予告なく変更になる場合がございます。

【お問い合わせ】

京都大学同窓会事務局 電話075-753-2029・5563

E-mail: alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/

四明會令和3年度役員名簿

会 長 澤山 茂樹
副 会 長 田尾龍太郎
監 事 白井 理
〃 熊谷 元

常任委員

農 学 専 攻 田尾龍太郎
森 林 科 学 専 攻 仲村 匡司(総務)
応用生命科学専攻 小川 順
応用生物科学専攻 寺内 良平
地域環境科学専攻 日本 典秀
生物資源経済学専攻 伊藤 順一
食品生物科学専攻 保川 清

委 員

農 学 科 大野 翔
林 学 科 内藤 大輔
農 芸 化 学 科 白井 理
農 林 生 物 学 科 寺内 良平
農 業 工 学 科 中嶋 洋
農 林 経 済 学 科 鏡島 正信
水 産 学 科 菅原 達也
林 産 工 学 科 築瀬 佳之
食 品 工 学 科 渡邊 大輔
畜 産 学 科 熊谷 元
熱 帯 農 学 専 攻 樋口 浩和

顧 問 坂本 雄美
〃 半田 智子

事 務 局 沖田 義孝
〃 児玉富美子

◎事務局より

令和2年度はコロナウィルスの影響をもちに受け、卒業50周年記念同期生会、ソフトボール大会が開催できず、また、同窓会・クラス会も自粛されたところが多かったようで支援金の申請もなく、このため記事が無くページ数を削減せざるを得ませんでした。その代わりと言っては何ですが、高槻農場跡地にできた安満遺跡公園の紹介記事を掲載しました。十分な紹介はできませんでしたが一度訪問されることをお勧めします。

この四明会たよりがお手元に届くころには東京オリンピックは閉幕していると思います。今回は開催が1年延期されるとともに、首都圏のほとんどの会場が無観客となりましたが、それもこれもコロナウィルスのせいです。ワクチン接種が進んでいるとはいえ、集団免疫を形成するにはまだまだ遠いようです。

コロナウィルスの一刻も早い終息と、会員の皆様方のご健康とご活躍をお祈りいたします。

四明会たより (2021年8月発行)

京都大学農学部四明會

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/